Janis

洋風簡易水洗便器

ジャレット

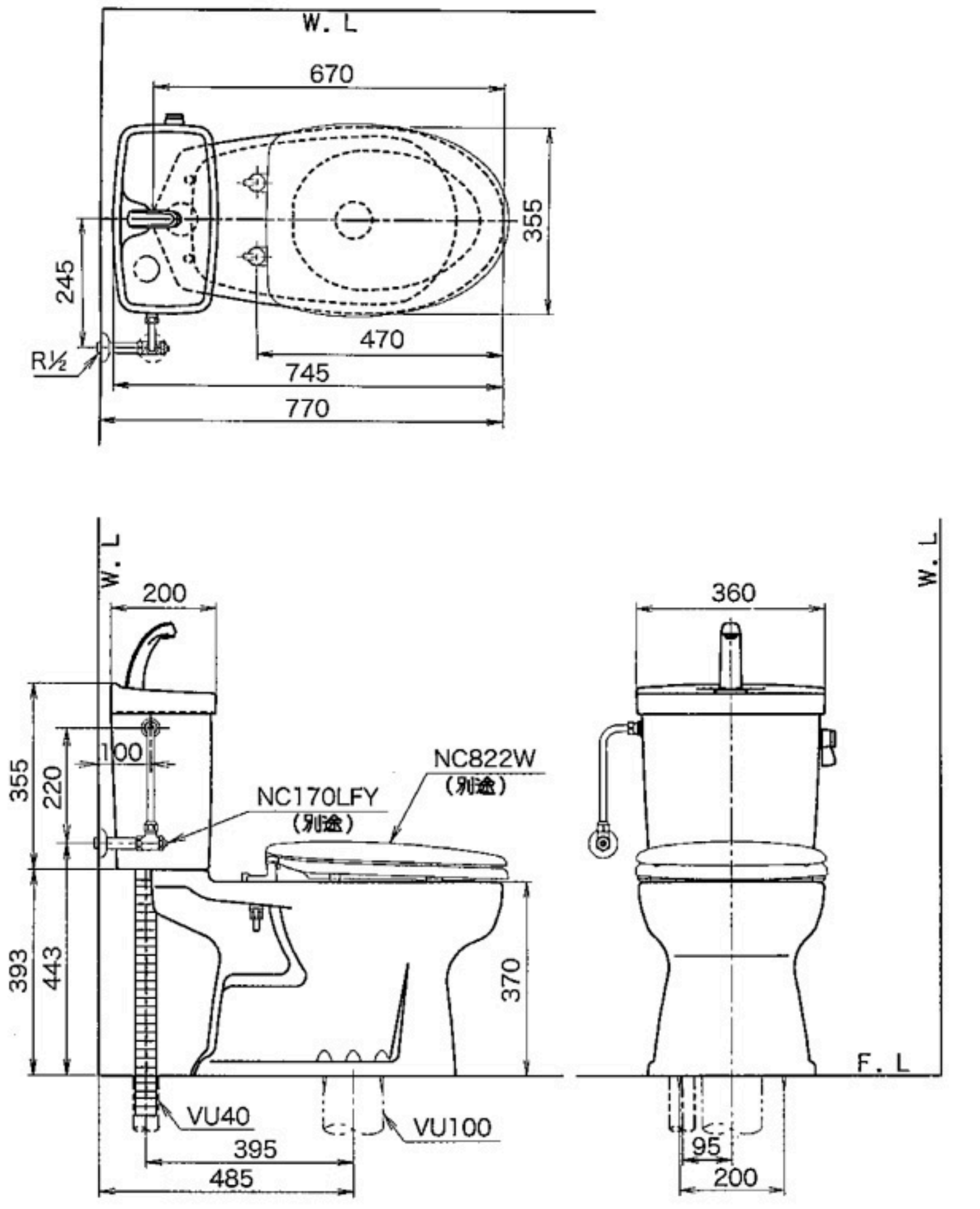
（バランス式開閉弁
密 結 型 タ ン ク）

施工説明書

●このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
●この施工説明書をよく読み、正しく施工ください。
●取付けの前に必ず「安全上のご注意」をお読みください。この「安全上のご注意」では安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
●取付け後、この施工説明書は取扱説明書とともにお客様に必ずお渡しください。

寸法図

図−1

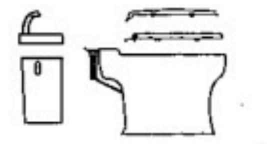
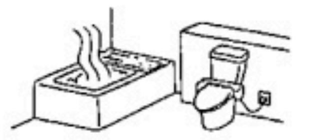
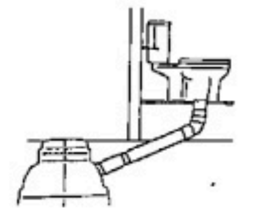


安全上のご注意

ここに示した注意事項は、いずれも安全に関する重要な内容を記載しています。正しく安全な取付けを行うため、また使用時の事故を回避するため、以下にあげる注意事項を守ってください。

記号の説明	用語の説明
⚠注意… 取扱いを誤った場合に、取付けを行う方や使用者が傷害を負うか、物的損害のみの発生が想定されます。	❗…「指示通りにしなさい！」という意味の記号です。 ⃠…「してはいけません！」という意味の記号です。

⚠注　意

1	分解・修理・改造は絶対にしないでください。 事故や故障の原因になります。	⃠	
2	浴室など湿気の多い場所に設置しないでください。 感電や火災の原因になります。	⃠	
3	必ず専用便槽に接続してください。 専用便槽は最低でも500L以上の容量が必要です。 容量が少なすぎると、くみ取り回数が多くなります。	❗	
4	電気配線工事は必ず電気工事店にご依頼ください。 資格のない人が電気工事をする事は、法的に認められておりません。	❗	
5	オーバーフロー配管はVU40で施工してください。 ●給水が止まらない場合、あふれて家財をぬらす原因となります。 ●オーバーフロー配管は便槽に接続しないでください。	❗	
6	施工後必ず試運転し、動作確認と水もれがないか確認してください。	❗	

お願い
1. 水道配管工事は各自治体の指定店にご依頼ください。
2. 横引き配管の継ぎ足し、曲げはしないでください。
   配管つまりの原因になります。（横引き管は1.5m以下にしてください。）
3. 汚水たて管の管長が1.5m以上になる場合、臭突を取付けてください。
   特に臭いが気になる方は、1Fでも臭突を取付けてください。
4. 排気トップの下端は、窓や換気口の上端から600mm以上高い位置に取付けてください。
5. 専用便槽の施工については、便槽の施工説明書をよくお読みになってください。

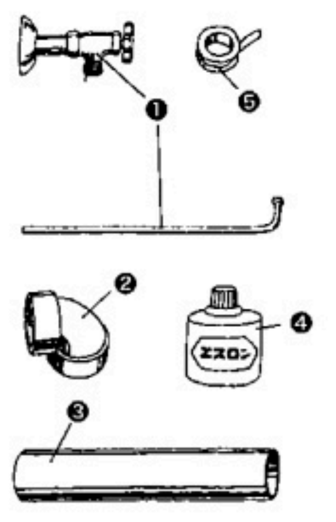
施工をお始めになる前に

①梱包の内容を確認してください。

各部の品名は右記仕様表の通りです。

②別途、次の部品を用意してください。

No.	部品名	仕様
❶	止水栓	1/2インチアングル止水栓（NC170LFY）
❷	排水継手	DL40エルボ
❸	排水用塩ビ管	VU40パイプ
❹	塩ビ用接着剤	
❺	シールテープ	
❻	施工用工具一式	



③便槽の容量はこれだけ必要です。

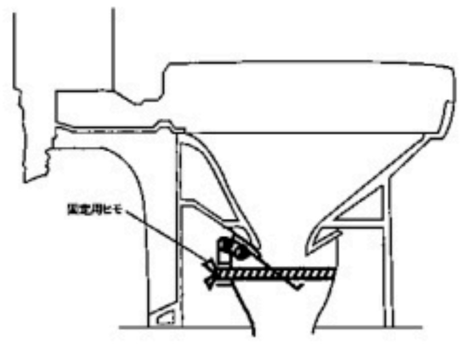
便槽容量は必ず家族数から割り出してください。
容量計算は、1人1ヵ月のし尿と洗浄水の合計量を110ℓとして計算しますが、来客や家族増を見越して、便槽は大きめのものをご使用ください。

家族数×110ℓ+30ℓ（来客分等）
＝月1回汲取りでの
便槽必要容量

ただし最小の場合でも500ℓの便槽をご使用ください。

④おもり（ソーサウェイト）の固定用ヒモのとりはずし

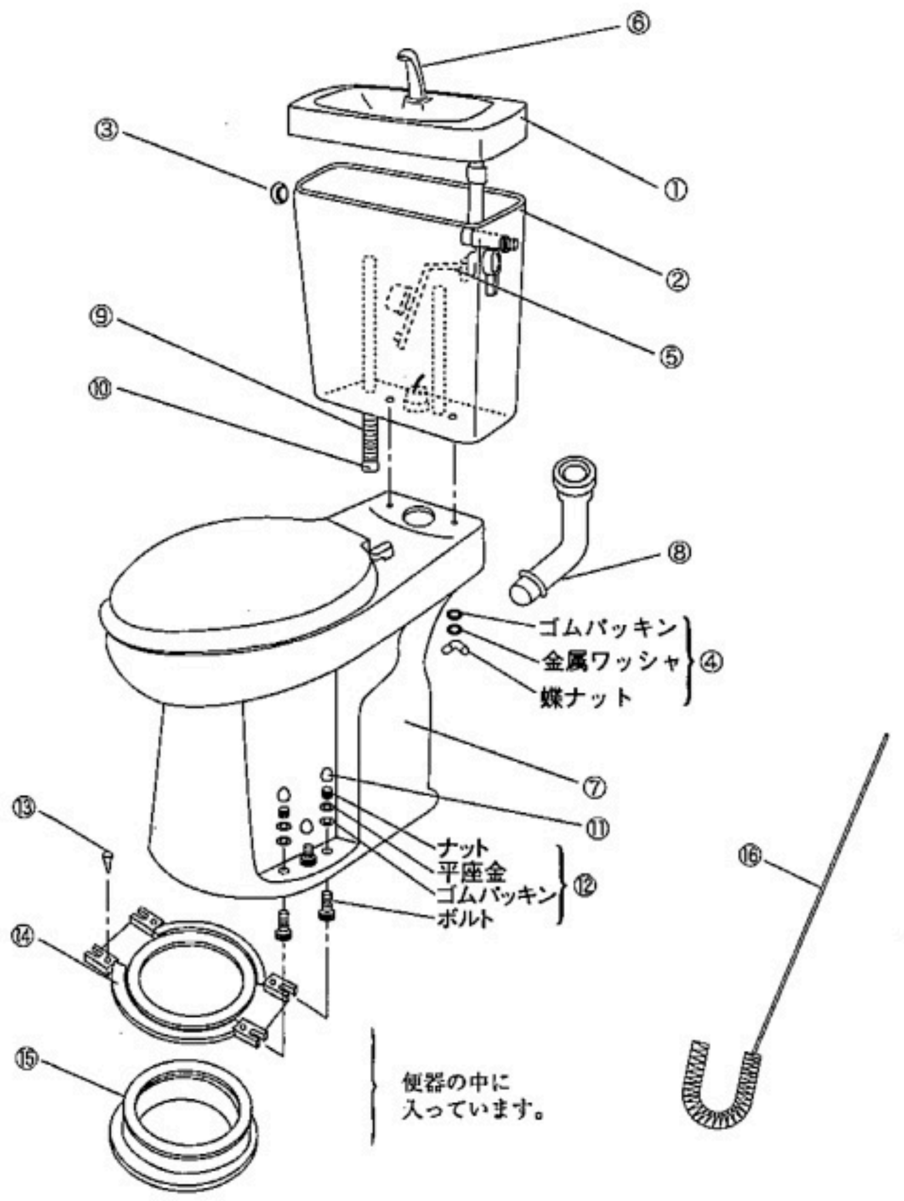
施工の前に、おもりを固定したヒモを必ずとりはずしてください。



部品仕様表

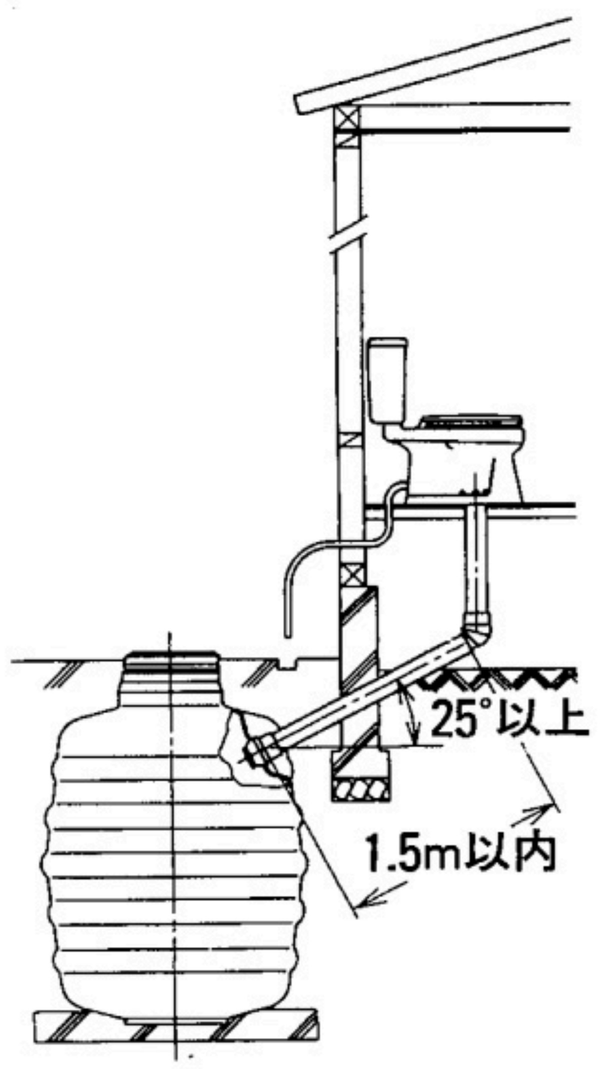
		No.	部品名	数量	備考
ロータンクセット		1	ロータンクふた	1	手洗付の場合は手洗ふた
		2	ロータンク本体	1	
		3	ロータンクキャップ	1	
		4	ロータンク取付蝶ナットセット	2	ロータンクに仮取付済
		5	ボールタップ	1	
		6	手洗吐水栓	1	手洗付の場合のみ
便器セット		7	便器本体	1	ソーサハウジングセット付き
		8	通水管	1	便器へ取付済
	便器ボウル内	9	排水用自在ホース	1	ホースバンド付き
		10	ワン	1	
		11	化粧キャップ	6	
		12	本体固定ボルト・ナットセット	4	ボルト・ナット・ゴムパッキン・平座金
		13	木ネジ	4	
		14	フランジ	1	
		15	パイプ固定シールパッキン	1	フランジに取付済
		16	掃除用ブラシ	1	
			説明書類	1	

（注1）二つのポリ袋に⑪の部品と⑫、⑬の部品がそれぞれセットで入っています。
"お願い"　説明書類は、お客様にお渡しくださいますようお願いいたします。

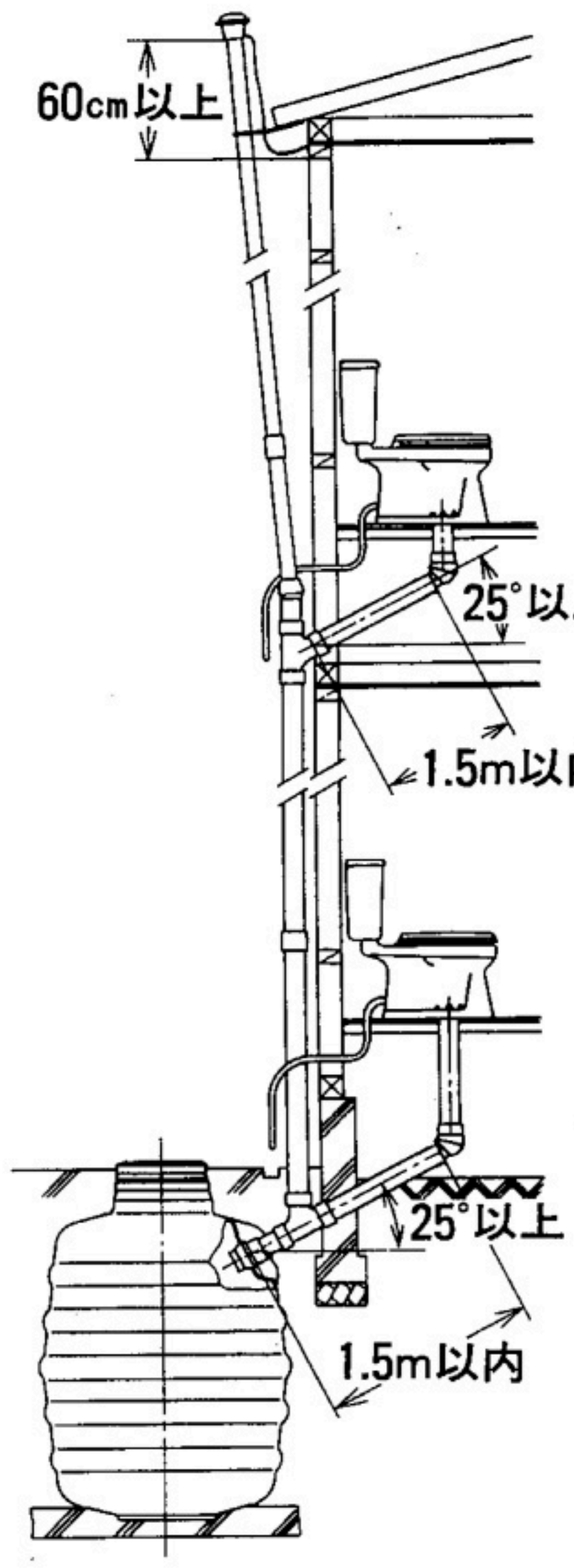


施工例

1階施工例

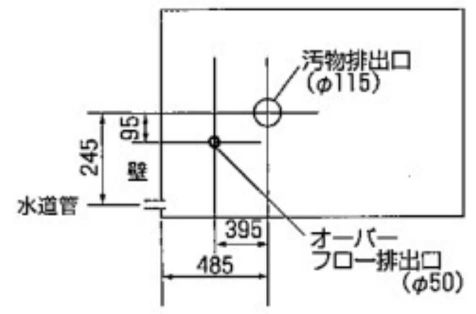


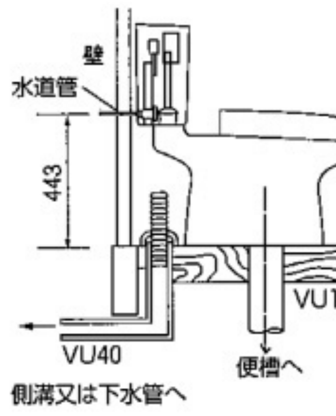
1・2階施工例



手順1 配 管 工 事

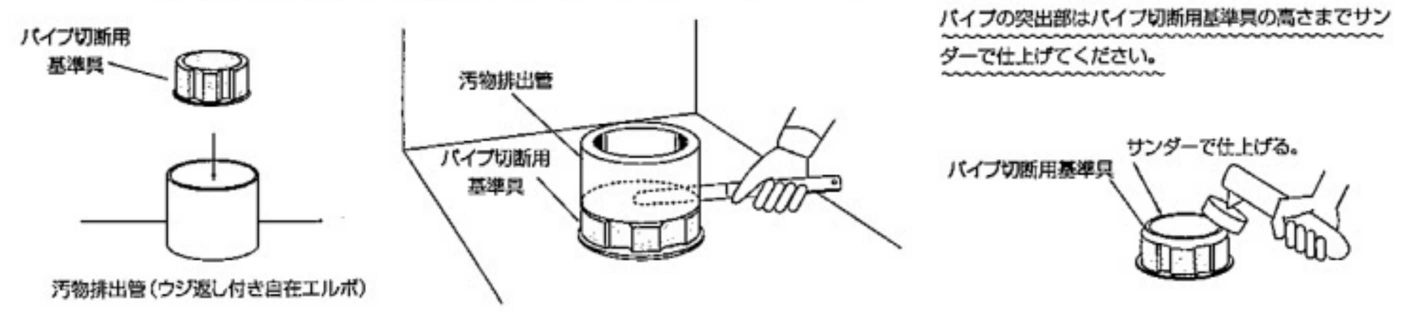
①汚物排出管、オーバーフロー排出管、水道管の位置決め





②汚物排出管の立上げ

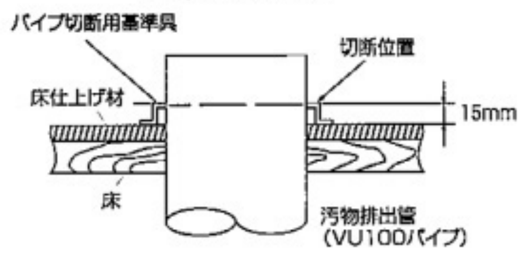
汚物排出管（VU100パイプ）又は、ウジ返し付き自在エルボを床下から立上げ（便槽から立上げ）これにパイプ切断用基準具をはめ込み、上端にあわせて切断してください。床にクッションフロアー等の仕上げ材を敷くときは、その厚み分だけ高く切断してください。
(汚物排出管が出すぎると、便槽が据付けられません。)
注意）・パイプ切断基準具から突出した部分は、サンダー等で削って仕上げしてください。
・パイプ切断基準具は、切断後とりはずし、捨ててください。

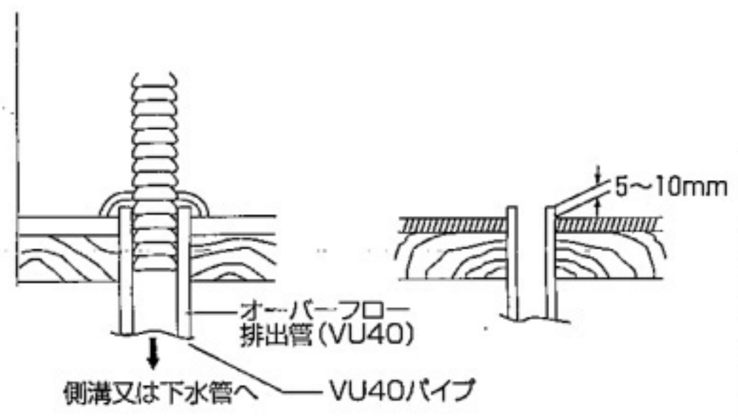


③オーバーフロー排出管の立上げ

オーバーフロー排出口にオーバーフロー排出管（VU40）を、床仕上げ面より5～10mm突出して配管してください。側溝又は下水管へ配管してください。
注意）オーバーフロー排出管は便槽に接続しないでください。

床仕上材のある場合
切断寸法決め





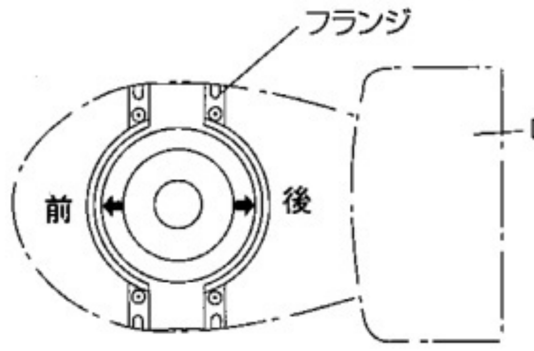
⚠注意

禁止	**オーバーフローの配管は必ず行い、オーバーフロー水は絶対便槽に入れないでください。（便槽のあふれる原因となります。）**
❗	**汚物排出管は、パイプ切断基準具の高さで仕上げてください。（臭気があがったり、水もれの原因となります。）**

手順2 フランジの取付け

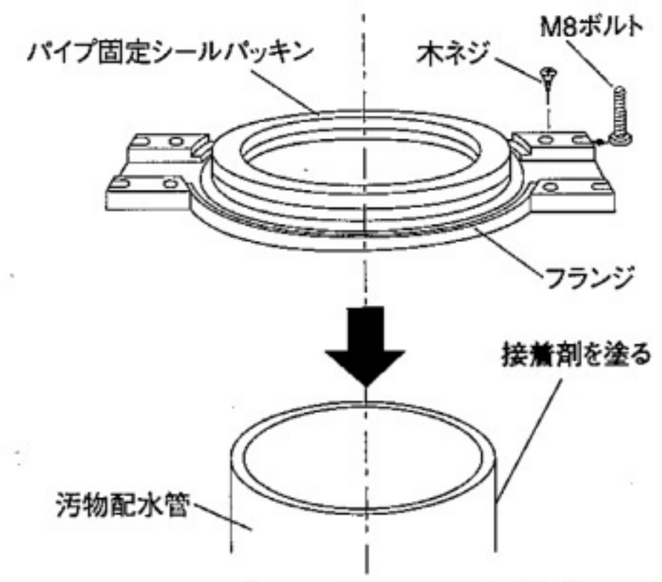
①フランジの方向決め

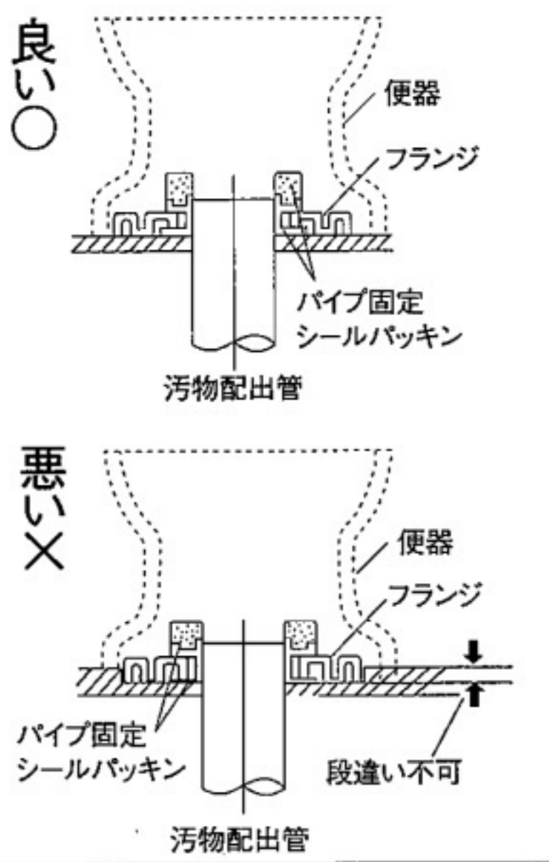
・フランジに表示している後をロータンク側にしてください。



②フランジの取付け

汚物排出管の外周に塩ビ用接着剤を塗ってから、フランジを汚物排出管にセットして4個のφ5.1木ねじで、床に固定してください。フランジは便器と同一平面に取付けてください。段差があると、ソーサハウジングとすき間ができ、水もれの原因となります。





⚠注意

❗	**フランジの取付け面と便器の据付け面は同一面にし、平滑にしてください。（便器がぐらついたり、水もれの原因となります。）**

手順3 ロータンクの取付け

ロータンク固定ボルトについている蝶ナット・平座金・ゴムパッキンをはずしてから次の要領でロータンクを便器に取付けてください。

1）ロータンク固定ボルトを便器本体の穴に通し、便器本体にロータンクをのせる。
※ロータンクの底部が便器本体にあたるまで上部を押さえてください。

2）ボルトにゴムパッキン、平座金の順にはめ込み、蝶ナットで充分締付けてください。

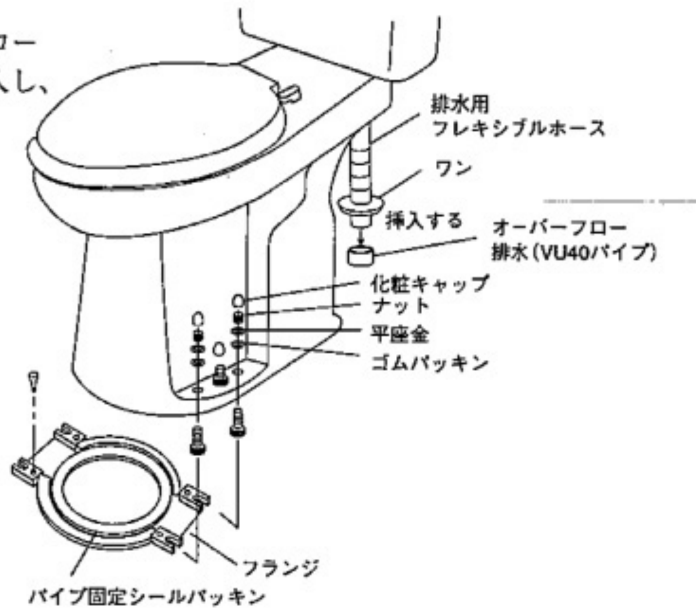
※ロータンクのがたつき、傾きがないように左右均等に締付けてください。

注意）蝶ナットは必ず手で確実に締付けてください。

手順4 便器の据付け

便器の据付け

1）4本の本体固定ボルト（M8×40）の頭部をフランジのボルト取付溝部へ横から差し込んでください。
2）フランジから立上げた4本のボルトに、便器本体の穴位置を合わせて据付けてください。
3）ボルトに、ゴムパッキン、平座金、ナットの順に締付け、化粧キャップを取付けてください。
4）ロータンクオーバーフロー排水管の底部の突き出し部に、排水用自在ホースを接着（塩ビ用接着剤でよい）し、ホースバンドで固定してください。
ホース先端部をオーバーフロー排出管（VU40）内へ挿入し、ワンで目隠ししてください。



手順5 給水配管と手荒・吐水栓の取付け

①給水管の接続

1）給水用金属管をアングル止水栓に接続してください。
注意）パイプ切断時の切りくずやゴミが給水管の中に入らないようにご注意ください。
2）給水用金属管とボールタップを接続してください。ボールタップのフクロナットの中にストレーナー、パッキンが入っています。忘れずにボールタップに取付けてください。
注意）・手洗いなし用ボールタップにはストレーナーはありません。

②手洗吐水栓の取付け（手洗いタイプのみ）

1）ロータンクのふたに手洗吐水栓を取付てください。
2）ボールタップの接続管を、手洗吐水栓に差し込みフクロナットで確実に締めてください。

⚠注意

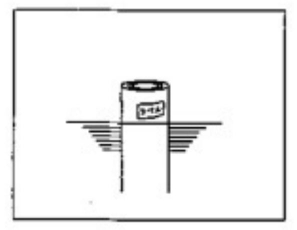
❗	**止水栓は必ず取付て下さい（止水が出来なくなります）**

手順6 確認と点検

- **●ソーサ皿がきちんと閉まっているか、ソーサ皿を手で押さえて開閉するか、確認してください。**
- **●オーバーフロー管（水抜き栓）がしっかりと差し込まれているか、又、オーバーフロー排水が側溝又は下水管へ排水されるか確認してください。**
- **●タンクレバーの鎖のはずれ、タンクレバー、フラパーゴムの作動に異常がないか確認してください。**
- **●アングル止水栓を開いて通水し、配管や止水部からの水もれがないか確認してください。**
- **●ボールタップの給水及び止水性の確認をしてください。**
- **●レバーを操作、水を流し、ソーサ皿の開閉、水の流れ具合、および排水に問題がないか確認してください。**
- **●約10ℓ／回の水を1回以上リブレットに流し、汚物排出管（ウジ返し付自在エルボ、横引管、汚水管）からの水もれがないか確認してください。**
- **●ボールタップのフロートを手で押さえ、連続給水し、オーバーフロー管から十分排水できるように止水栓で水量を調整してください。**
- **●手洗水がハネる場合、給水管のうねり、振動がある場合は水道水圧が高いので止水栓で水量を調整してください。**

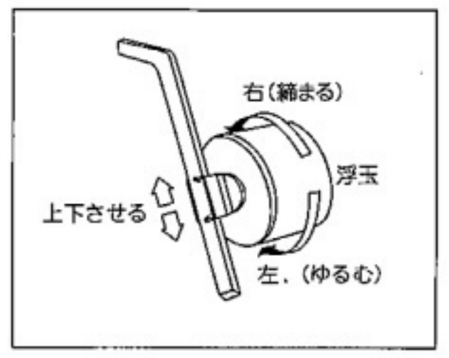
★水位の調整

タンクに給水し、止水位がオーバーフロー管のラベルの下端に合っていない場合、水位調整ノブを回して、合うように調整してください。



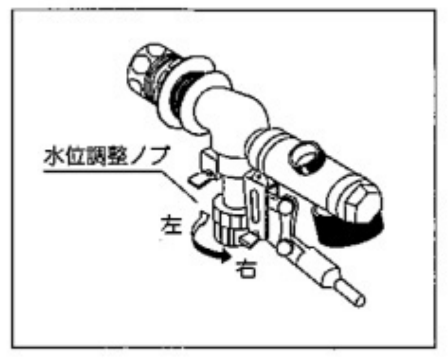
（手洗い付きの場合）
浮玉を左に回すとねじがゆるみ、上下に移動させることができ、それにつれて水位も上下します。

注意）・調整後は、必ず右に回して浮玉を固定してください。
・強く締め過ぎて、破損させないようご注意ください。



（手洗いなしの場合）
水位ノブを左右に回し、合うように調整してください。

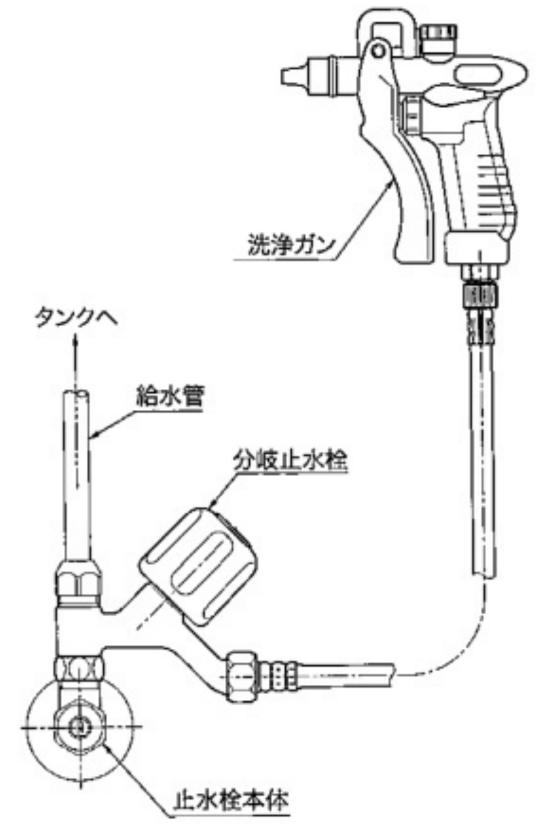
注意）・右に回すと水位が上がり、左に回すと水位は下がります。
・浮玉を軽く手で押さえておくと、ノブがスムーズに回ります。



以上で工事は完了です。

洗浄ガンの取付け

※オプション（別途、ご購入ください。）
●分岐止水栓を図の様に、止水栓本体上部に取付けてください。



お 願 い

★施主さまに、ひととおり使用法を説明してあげてください。

水抜き栓の使い方

水抜きが必要な場合…

①寒冷地で、タンクの水が凍る恐れがある時。

水抜きの手順…

①アングル止水栓、または水道元栓を締め、ロータンクへの送水を止める。
②ロータンク内のオーバーフロー管（水抜き栓兼用）をねじるように引き抜く。
※貯水する時は、この逆の手順です。水抜き栓を差し込む時は、ねじ込むように確実に差し込んでください。
注意．オーバーフロー管を抜く場合、タンク内部品に注意して作業してください。

オーバーフロー排出配管

オーバーフロー排水は、外部の側溝下水管へ排水されます。

★「取扱説明書（保証書付）」を必ず施主さまにお渡しください。

配管手順及び注意事項

1）便槽を据えつけます。
2）横引管の角度が25°以上になるよう仮配管（接着剤を塗らずに配管）により、ジャレットとの位置を確認して、横引管を切断します（1.5m以下）接着剤を塗って接続した時の方が、片側で10～15m/m程深く入りますから、注意してください。
3）横引管の角度が決まったら、自在ソケットの摺動部へ接着剤を全周流しこみ、固定してください。
・塩ビ用接着剤　使用上の注意
①塩ビ用接着剤は速乾性です。接着作業はすばやく行ってください。
②風の強い時や夏の直射日光の下では、接着剤の乾燥が早いので、接着剤はタップリ塗ってください。
③接着が万一、うまくいかなかった時はすぐ抜き取って、接着剤をよくふきとりもう一度最初から行います。
④接着剤は、接着する部分の両面に塗ってください。
4）横引管を接続します。
5）ウジ返し付き自在エルボは、必ずラベル部を上にして横引管と接続し、床面上に突出して配管してください。
6）自在エルボの下には、当て木を置いて配管部を固定してください。

器具・配管標準図に示す内容で施工できない場合は、下記の配管注意事項を必ず守ってください。

1）配管材料
(1) 管の外観・形状・材料は、JISK 6741（硬質塩化ビニル管）によるものとし、肉厚は、汚水管にあっては2mm以上、排水管にあっては、1.5mm以上であること。
(2) 継手は、(1)に準ずるものとし、汚水管用は、汚物の流下に支障のない形状・構造を有するものであること。ただし、継手の肉厚は、ブロー成型品に限り、少なくとも(1)の80%とすること。

2）排気管
(1) 管長（直管実長）が1.5mを超える汚水立て管を設ける場合は、その上部等から排気管をとるなど適切な排気装置を設けること。
(2) 排気管の先端には、排気トップ等を設けること。
(3) 排気トップは、防臭機能に支障を来さない性能であること。
(4) 排気トップの下端は、建物の出入口・窓・換気口などの上端から600mm以上高い位置に設けること。
(5) 排気管の接合部は、十分な耐久性・気密性を有すること。
(6) 管長（直管実長）が1.5m以下の立て管で、排気管を設ける場合は(2)～(5)と同様の施工をすること。